



弁護士深草徹の「ここがポイント」

司法の独立

深草 徹



トランプ米大統領は、中東など7カ国出身者の入国を一律に禁止、という大統領令の効力を停止した連邦地裁及び同控訴裁判所の決定を、激しく攻撃しました。

古い出来事ですが、日本では大津事件のことが思い出されます。大津事件とは、1891年5月、滋賀県大津市内で、ロシア皇太子に巡査津田三蔵がサーベルで切り付け、ケガをさせたという事件です。政府は、当時の刑法の「天皇等に対する殺傷罪」を適用し、津田を死刑に処すべし、と猛然たる裁判干渉をしました。

これに対して、大審院院長児島惟謙は罪刑法定主義を尊重し、刑法中の「一般の殺人罪」を適用するべきだ、と抵抗しました。その抵抗の効があり、担当裁判所は、津田を一般の「殺人罪（未遂）」として、無期懲役に処しました。

大津事件は、政府の外交上の思惑による裁判干渉が失敗し、司法の独立が守られたことによって、わが国が文明国の一員に列する資格を得た、画期的なできごとでした。

今では、司法の独立は、いずこの国でも憲法上の根本原則、文明国の必須要件です。司法を罵倒するトランプ大統領の意識・行動は、文明国の水準を逸脱しています。

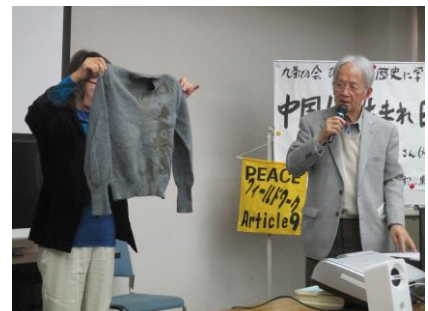
(九条の会. ひがしなだ共同代表、深草憲法問題研究室主宰)

林伯耀さん講演・映画が好評

「3・11映画祭」でも上映&監督トーク

1月22日開催の歴史に学ぶ学習講演会「中国人に生まれ、日本で生きて～在日中国人から見た戦争の真実」は、林伯耀さんの証言を裏付けるドキュメンタリー映画『南京 引き裂かれた記憶』とも併せて好評で、予想以上の成功を収めました。

そのため、今春の「3・11映画祭・自主上映会」にも取り上げられ、その一環として3月11日、元町映画館2階で武田倫和監督のトーク付きで再公開されます。



当日のスケジュールは

■ 3月11日（土）

①10：30～『南京 引き裂かれた記憶』上映（85分）

12：00～武田倫和監督トーク（40分）

②13：00～『南京 引き裂かれた記憶』上映（85分）

参加費は1000円。誰でも参加できますが、人数把握のため、事前連絡を要請しています。連絡先は

メール：civilesocietyforum@gmail.com

なお、3月11日18：10～の『横浜事件を生きて』（58分）、『横浜事件の問い』（35分）の上映終了後、九条の会、ひがしなだの世話人でもある八木和也弁護士が、「共謀罪はいつか来た道に」と題して約40分のゲストトークを行います。



元町映画館の位置図

沖縄を思う

ぬちどうたから（命こそ宝）

犬井 裕美子

チムチムチム・・・

不思議な声が聴こえてきます。「あれは鳥の声ですか？」テント前でおばあさんが答えてくれました。「蝉ですよ」

透き通った楽器の様な声の正体は蝉（セミ）でした。濃い緑、柔らかな緑が広がる森の中、様々な生物が生息しています。

去年の9月、沖縄・高江の森を訪れた私は、絵本の中に出てくるような不思議な形の低灌木が、びっしりと生えている森の美しさに感動しました。それと同時に、テント前を何台も通り過ぎる大きなトラックに破壊を感じ、不安な気持ちになりました。

そしてとうとう、12月の末に痛々しい傷跡を残して、ヘリパッドは驚くほど短い期間で出来上がり、破壊は辺野古の海へと続きます。森、海、たくさんの生物の命・・・そして、そこで暮らす人々の安心や生活を奪ってまで、基地は必要なのでしょうか。事故を起こしても正当な説明もなく、今もオスプレイは飛び続けています。

本当に大切なことは何なのか、一人一人がしっかりと考えなければいけない時が来ていると思います。

（東灘区住吉宮町在住）



「バラバラでいっしょ」が創る平和

永田喜嗣

「バラバラでいっしょ～差違（ちがい）をみとめる世界の発見～」

この言葉は浄土真宗、東本願寺が以前、掲げていた言葉です。

この言葉の意味は何でしょうか。「バラバラ」であるものが「いっしょ」であるということは一見、矛盾して見えるかもしれませんが、しかし、現実には地球上に住む者が全てはバラバラなのが、ごく当たり前のことです。「バラバラでいっしょ」とは相手と自分が異なっている、相手と自分の価値観が違っていることを、十分に理解した上で、それを認め合った先に存在する世界でしょう。

「バラバラ」で、「いっしょ」にならない世界では、必ず争いが起きます。「バラバラ」のままであるが故に、戦争が起こります。今、世界は全てがバラバラのままに、更にバラバラに分断してしまおうとする力が、支配しようとしています。

「バラバラでいっしょ」

私たちが今、必要とするものは、「差違をみとめる世界の発見」なのです。

(抗日映画研究家)



私のひと言

会話のタブー

K. Y

会話には三つのタブーがあるらしい。野球、政治、宗教の三つのタブー。これらを話題にすると、立場が違う者同士の間では、意見が対立して、時に収拾がつかなくなるというのだ。異なる立場にある者同士の意見がぶつかり合うのは、何もこの三つの話題に限らない。経済の見方や文化的価値観、人間の評価まで、対立する考えは、どこまでも平行線をたどる。

しかし、それをタブーとして避けようとするのは、見たくないものから目を逸らしているだけではないのか。相手の考えの背景にあるものを理解しようとしなければ、相手と自分との間の距離を測ることも、共通点を見出すこともできない。これでは、相手を的確に批判することも、できないのではないだろうか。

一口に相互理解と言っても、そう容易なことではない。ただ、初めから理解を放棄するのでは、自分の学ぶ機会をも失ってしまう。理解に努める姿勢こそ、議論を実りあるものにし、自分の世界をより広げてくれるはずだ。

(大学院生)

赤塚山の時代

公庄 れい

私が現住所に住みついた 1960 年代半ば、当地は赤塚山と呼ばれていた。住吉台、渦森台は、まだ自然の山。家のまわりにはワラビも出て、笹ユリも咲いていた。そして、雨の後には、庭に亀が這い出してきたり、数センチの蟹が見つかったりした。住吉川の東側には、ヘルマンさんの旧居が西洋のお城の廃墟のように、そびえていた。

白鶴美術館の隣、徳本寺のご住職（当時 70 歳くらい）のお話は、興味深いものであった。ご住職が小僧さんだった頃、まわりは殆ど棉畑で、住吉川から引かれた用水を使った水車が、海側へと並び、酒米を搗いていた。酒米は、米が半分くらいになるほど搗くので、米の粉がたくさん出来る。その粉で煎餅が作られ、米搗き職人には、播州の人が多かったので、彼らは故郷に製粉の技術を持ち帰り、“揖保の糸”が生まれた、というのである。

現在の鴨子ヶ原 2 丁目の辺りには、鬱蒼とした森に囲まれた大きな池があり、昼間でも恐ろしいような所で、そこから流れ出す水は随所に滝をつくり、僧たちの行場になっていたのだ、という。亀や蟹は、その証人だったのであろう。

(孫たちの将来を案じるおばあちゃんの会)

新刊紹介

22 歳が見た、聞いた、考えた 「被災者のニーズ」と「居住の権利」 ～借上復興住宅・問題～

(市川英恵著、クリエイツかもがわ、1200 円+税)

「借上復興住宅」問題って何？

まるで何も知らない人にこそ、読んで欲しい 1 冊です。

寺田浩晃 (大阪芸術大学学生)



カンパの郵便振替口座

口座記号 00900-6
番号 0217129
名義 九条の会. ひがしなだ

催し案内

2017 年 春の史跡・戦跡めぐり

日時：4月1日(土) 13:30

集合場所：JR 摂津本山駅北側 改札口前 (雨天決行)

コース：JR 摂津本山駅～へボソ塚～岡本南公園～
甲南大学～住吉学園～細雪記念碑

参加協力費：300円

主催：史跡・戦跡めぐりの会、九条の会ひがしなだ

問合せ：090-6206-9211 (合田)

編集後記
★今回もまた、原稿が溢れかえり、次号回しが増えて申し訳ありません。一人でも多くの人にご登場いただき、交流の機会を増やせればと思っています。
原稿は 400 字以内を守り、みんなハッピーの世界をつくりましょう。